

## 初等部勉強報告会に当たって

初等部長 中村弘之

普通の授業では、「時間が足りない。」と思うことがあります。子どもの興味が膨らんでいるのに、満足できるまで付き合えなかったり、実物を見せに行きたいのに行けなかったりと。それは、子どもの自分から考える力を奪いながら、授業だけを進めているのではないかと思うこともあるほどです。

「詰め込み勉強」は、私たちが一番嫌い、恐れている勉強方法なのですが、ふと気づくとそれをしていて自分に気づくことがあるのです。

勉強報告会では、あるテーマを選び、子どもたちのペースで考え、思いついたことを可能な限り実現し、納得できるまで練りこんで(探求、話し合い)いき、自分たちの言葉にして大勢の前で発表します。発表して終わりではなく、その後、自分たちの生活の中に生かしていくところまでです。

また、みんなで考えを出し合い、学び合うことが大切です。自分の考えを出し尽くしたと思っても、友達が違う観点から意見を出して「あ、そうか。」と思うことがあります。この積み重ねは、自分だけより、多くの人と力を合わせたほうが楽しいし、良いことができるという体験になります。「協力」と呼んでいるこの力もまた勉強報告会で得られる大切なものでしょう。

- ・ 自分たちの周りが以前より良くなったか。
- ・ 協力を学んだか。

この二点は、勉強報告会が成功したかどうかのバロメーターでしょう。

このダイナミックな学びは残念ながら勉強報告会の時にしか十分にできないのです。ただ、この時の経験は教師にとっても子どもたちにとっても残りますので、普通の授業の中にも生きていきます。

生活と勉強が本当に繋がっていなくては自由学園の勉強とは言えません。生活の中の疑問から勉強が始まり、勉強した結果で生活をよくしていく、という一連の流れが「生活即教育」の具体的なイメージとなります。

いわゆる受験勉強のようにアウトプットの速さ、多さを鍛えるというのとは違い、生活力と結びついた「足元から一つ一つ積み上げていく力」をつけるものです。将来、困難にぶつかり、一発逆転の解答が導き出せなくてみんなが困っているとき、粘り強く解決していく力はこのような力なのです。

教師にとっては、「自由学園らしい勉強」を探求する機会です。初等部の特長ある授業や校外学習は、勉強報告会で生まれたものがほとんどです。

これからも、勉強報告会は以上のような役目を果たして行くと思います。他の行事とは一味違う重要なものだと意識して取り組まなければなりません。